

ぼくとママの歩み

田中 幸

ぼくとママは同じ年、十一才だ。ぼくが産まれて、ママはママになった。だから、ぼくのたん生日はママのたん生日でもある。

ぼくは最近、ママとよくケンカをする。えらそうな事を言つて、ママをよく怒らせる。ママは、「一丁前になったね!」と笑う。でも、ママもママで

「幸の時は全然考えられなかった。」と言ってるくらい、妹二人には良い意味で適当に子育てをしている。ママもどうやら一丁前になったらしい。

ぼくが産まれて、ママはママになった。まだ何も子育てなんてわからないママ〇才。ただただ真面目な新米ママ。ママは母乳が思うようにでなくて、

「母乳で育てられないなんて母親失格だ!」つて、毎日自分をせめてやんだ。

ママ一才。ぼくに何かある度におろおろしっぱなし。ぼくがたん生日に発熱、そして肺炎で入院した。

「もつと早く気づいてあげられてたら!」つて、ママはまた自分をせめてやんだ。

ママ二才。周りの子とぼくを比べてばかり。ぼくが思ったよりしゃべり始めるのがおそくて、「私がつつといろいろと経験させてれば!」つて、ママはまたまた自分をせめてやんだ。ママはママになってからずっと自分をせめてやんで過ごしている。なんだか、可哀想だ。ママは母乳が出なくてやんだことから、今は栄養バランスのとれた食事を作つてくれる。肺炎で入院してやんだことから、体調をくずしそうな様子をいち早く見抜いて対しよしてくれる。ぼくの成長でやんだことから、ぼくの興味・関心に合わせていろいろなことを体験させてくれる。ママはぼくを通して、ママの経験を積んでいったんだね。

ママ十一才。もう一丁前、ちよつとのことでは動じないかんろくまで出てきた。この間、塾がないことを忘れていて、ぼくは塾の前でむかえに来るのを二時間待った。二時間後、ママがむかえに来た。車にかけよつて、塾がなかったことを伝えると、ママの顔が真っ青になった。ぼくに何もなかったかと聞く声やぼくをだきしめる手が震えていた。ママは、

「幸にもしものことがあったら!…つて—今、ここに幸がいることだけがもう!」と泣き出した。

この十一年間ですっかり一丁前になったはずだったのに、ぼくのことになるとまだまだ新米のままだったんだね。ぼくが生まれたしゅん間から、ママはぼくにずっとずっと愛を注いでくれてたんだね。顔を見て直接言うのはちょっとはずかしいけど!…本当にありがとう。これからもずっとずっといっしょに歩んでいこうね。